

踏 み 跡 < My mountains >

奥多摩・奥高尾	白杵山から陣場山へ	No.011
---------	-----------	--------

6月に戸倉三山のひとつである刈寄山へ行ったので、残りの二山(白杵山と市道山)へも行ってみたいとなり、横山を誘った。陣場山まで縦走して見ようという計画になった。

昭和 37 年 2 月 18 日
 新宿発6時20分長野行、
 立川での五日市行への乗換え
 えは駆け足。

武蔵五日市7時30分着。
 天気は快晴、身支度を調べて
 水を確保してすぐに出発。



秋川から支流の盆堀川の谷

に入り、盆堀の集落から荷田子峠に上がり(9時到着、)尾根沿いに白杵山を目指した。グミ御前まで登ると富士山がよく見えてきた。(9時30分)

白杵山着は10時15分。海拔842m、戸倉三山中の最高峰。笹尾根越しに見る富士山は白装束で文句の言いようがない。時折ハンターの銃の音が聞こえて、何となく怖い感じがする。休憩と軽食のあと10時40分に出発。稜線を南に下り市道山まで一時間の行程。

市道山(795m)に11時40分着。風が強いので、風を避けた場所に座って一時間の休憩をとって昼食。

戸倉三山を縦走しようという登山者が3、4人いた。12時40分出発。

市道山から南へ陣場山につながる稜線はつり尾根と名付けられている。

尾根を間違えてコザカシ沢(小坂志沢)に下りてしまい、あわててウルシガ沢をよじ登って元の稜線に戻った。コザカシ沢には氷結した10~15mほどの滝がいくつかあり冷や冷やしながらか登り、大幅なロスタイム。

無事つり尾根に戻れたのは15時20分。小くぬぎを16時に通過して、醍醐峠16時15分、

和田峠16時40分、日没との競争になった。陣場山に着いたらもう17時。

富士は夕焼けにシルエットを描き、夏の間はにぎやかだった山頂には誰も人がいない。食べ物の残りを片付けて少しばかり景色を楽しむ。17時35分下山開始。急ぎ足で下り、藤野駅に着いたら19時30分。

深々と寒気が漂い、汗ばんだ体が冷たい。星が空一面に輝いているのを見ながら列車を待った。



藤野発19時55分、列車は満員で、高尾でようやく床に腰を下ろすことができた。新宿着は21時10分。この山旅の費用は350円だった。

以上

横山とのただ一度だけの山行だった。
 卒業後高崎の大学に進み、社会人になってからも海外勤務が多かった横山。折々の手紙が届くたびに思い出すが「誰もいない陣場山の頂上から眺めた夕焼け空の富士山」。

◆左写真:夕暮間近の陣場山(富士に見とれる)

(修正・更新:2023年9月)